

■外来化学療法室のご案内

平成20年9月より外来化学療法室を開設しましたので、紹介させていただきます。

* 患者さまの生活のペースに合わせて治療を受けていただけます。

外来化学療法室は、従来入院で化学療法を受けられていた患者さまに対して、通院でも化学療法を受けていただくことを目的として設置されました。これまで、入院しなければ行えなかった治療の一部が、治療や副作用への対処法の進歩により、通院でも行うことができるようになりました。

* 静かな環境で、安心して治療が受けられるように準備いたします。

スタッフは、専任の医師・薬剤師・看護師が担当します。静かな環境で、安心して治療が受けられるようにスタッフ一同心がけてまいります。どうぞスタッフに、お気軽にお声をかけてください。



● 皮膚科外来からのお知らせ

● 現在、皮膚科外来は火曜日と金曜日のみの診察となっておりますが、診察開始時間につきましても9時から変更となっております。(受付は8時から行っています。)

● ご迷惑をおかけいたしますがよろしく申し上げます。

● 糖尿病教室のご案内

● 9月は4日・18日・25日に行います。

● 時間 午後2時~3時 場所 東館2階232号室
● ※予約・料金とも不要ですので、気軽に参加してください。詳しくはお問い合わせください。

● 看護師(正職員・パート)募集

● 募集人員 若干名

● 申し込み 履歴書、資格証明書の写しを提出

● 問 市立病院庶務課

● 9月の土曜日の開院日のご案内

● 6日、20日を平常診察します。

● ただし、耳鼻いんこう科、皮膚科は休診となります。

心臓発作(狭心症・心筋梗塞)について

突然、あなたを襲うかもしれない心臓発作。でも、心臓発作ってどういうこと?そこで、7月に着任された内科医長の佐々木先生にお話を伺いました。

心臓発作って?

心臓発作とは病名ではなく、状態を示したものです。一般的には、急激な胸の痛みを症状として、場合によっては死に至る状態のことです。現在、突然死の約6割がこの心臓発作といわれており、そのもととなる病気である「狭心症」と「心筋梗塞」について今回ご紹介いたします。

狭心症とは?

心臓の筋肉に酸素や栄養を供給する血管(冠動脈)の内側が狭くなり、血液の流れが悪くなって心臓の筋肉が酸素不足や栄養不足になるためにおこる病気です。

心筋梗塞とは?

冠動脈の内側が完全に血栓(かさぶたのようなもの)で詰まってしまい、心臓の筋肉が部分的に壊死(筋肉が死んでしまうこと)してしまい、場合によっては心臓が止まってしまう、一刻を争う病気です。

それではどう違うの?

一般的には狭心症より心筋梗塞の方が胸痛の持続時間が長く、激しいのが特徴です。また安静にしても改善しないときは、心筋梗塞の可能性が高いです。

原因は?

動脈硬化が主因と言われています。動脈硬化は加齢とともに進展しますが、糖尿病、高血圧、肥満、高脂



血症(今、流行のメタボリック症候群など)を指摘されたことがある方や愛煙家の方は、動脈硬化の進展が加速しますので要注意です。

診断は?

心電図(運動負荷心電図も含む)、心エコーなど(外来での検査)。最終確認は、冠動脈造影検査(心臓カテーテル検査ともいう、入院での検査)となります。

治療は?

近年、殆どの方が血管内に細い管を通して、風船(バルーン)やステント(網目状の金属の筒)留置による血管拡張治療(経皮的冠動脈形成術)を受けていただきます。その後は、いろいろなお薬での治療が続きます。

予防は?

動脈硬化を加速させる「病気と上手におつきあいする」ことと「禁煙」でしょう。(おつきあいと言っても症状がないから放っておいていいという意味ではなく、しっかり治療するという意味ですよ。)

最後に

当院でも昨年から冠動脈造影検査が可能になりました。ひょっとしたら自分の症状は狭心症かも?と心配されている方がおられましたら、気軽に外来に相談にお越しく下さい。

○佐々木 弥寿延(ささき やすのぶ) 内科医長

・日本内科学会認定医、日本心血管インターベンション学会認定医、日本循環器学会循環器専門医

佐々木先生の外来診察は毎週木曜日です。

